



月刊 千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄) 千葉 2935・2936 番
(公) 043(222)7207 番

No.

96.4.25 4384

国鉄自衛の正念場 全支部の総決起を 96夏季物販スタート



中野委員長、激発を促す

四月二十三日、十八時より、各支部の代表を集めて「九六年夏季物販会議」が開催された。冒頭、中野委員長より

「今年の夏季物販は、沖繩集会の後に行った『全国物販担当者会議』で確認したとおり、この一〇年間でとうとう闘ってきた物販闘争を今まで以上に頑張っている。二八兆円を超える長期債務で判るとおり、これを労働者に責任転化しようとしている。三島会社及び貨物会社は何かしなくてはならない。しかし貨物会社は潰す訳にはいかない。三島会社は本州三社に債務を吸収させる状態にする。清算

事業団は、毎年一兆円以上の利子を支払わなければならない状態に追い込まれている。この問題は九六年から九七年でどうしても焦点化する。この二八兆円の債務は、今政府が抱えている『平成九年度問題』という現政権自体を揺るがす問題である。そしてもう一つは、国労・動

労千葉を解体し、自民党や新進党などに賛同するような労働組合にしようとしている。西日本や東海ではJR連合を結成し、JR総連東労に対して恫喝をかけている。東日本は、住田を会長にし、松田を社長にして橋本政権の下で第二の『分割・民営化』を画策している。しかし今の政府の『解決案』などではどうにもならない状態になっている。更に『日米安保』があるの沖繩の八五〇〇〇人の結集によってグラグラになっている。

JR当局は、牙を剥出しにして国労・動労千葉に襲いかかってきている。東京の国労活動家三五〇名をベンディングに収容し『国労パッチをつけていた』『改札を通った』ぐらいで出勤停止の処分を乱発している。

そして動労千葉には、区長面談によって脱退強要をしてくている。これは無視できない。我々の闘いは、『国労・動労

県内オルグの各支部担当地域

支部名	担当区域
新小岩支部	江東区・江戸川区・葛飾区
津田沼支部	船橋市・習志野市
総武支部	船橋市・習志野市
幕張支部	八千代市・鎌ヶ谷市
千葉転支部	千葉市・市原市
木更津支部	木更津市・君津市
館山支部	館山市・安房郡
鴨川・いすみ支部	勝浦市・夷隅郡・長生郡
佐倉支部	佐倉市・成田市・八街市
銚子支部	銚子市・旭市・八日市場市・佐原市
京葉支部	市川市・浦安市
本部	千葉市・東葛地区・四街道市など

千葉を潰されるか、或いはJR総連を解体するか』に懸かっている。目標一〇〇〇万円をやりが力ギになっている。この夏の合員を激励した。

自信、確信もって。白井協販部長 訴える

次に白井協販部長より、今回の物販闘争の方針が提起され、『九六年の闘いは『安保・沖繩・国鉄闘争』だ。沖繩の闘いに連帯して大失業時代に抗して労働運動の高揚を勝ちとるために昨年の七二時間ストライキを甫とした、JR体制を揺るがすものとして闘いました。この力もって全国オルグに打ってでよう。前回の冬期物販では、オルグ件数二七一〇件を回り、その

うち一三八九件の注文があり、今までの水準を大きく突破しよう。今までの殻を打ち破り、オルグ体制を強化拡大し、国鉄闘争が大きな正念場を迎えた今、九六夏季物販の成功を勝ちとるために各支部の総力決起を訴えます。一と、力強く訴えた。その後、布施副委員長の乾